


御前山ビオトープ通信

平成22年7月10日

第29号

編集： NPO「美しい田園21」 清野 メール：denen21@hb.tp1.jpホームページ：<http://w01.tp1.jp/~a071771011/>

目次

- 1 クモノスシダの移植
- 2 希少種の生育状況
- 3 第二回育成作業を実施：7月8日（木）

【案内図】



1 クモノスシダの移植

「クモノスシダ」は石灰岩質を好み、草の先端が細く伸び、そこから芽が出て株になり、更にその葉先に株ができるのがクモの巣に似ていることが名前の由来。形の面白さから自生地が乱獲によって荒らされ全国的に野生種が減少して絶滅危惧種となっています。

今回移植したのは川向の絶壁に自生していたもので、国営事業所の若手職員が胴長をつけて雨上がりの激流を超えて採取しました。

ビオトープの育成作業に併せてビオトープ周辺の岩場に移植しました。栽培も可能なようですが、本来の生息地として岩場に元気に定着してほしいものです。



クモノスシダの移植作業



2 希少種等の生育状況

林間のフタバアオイ、イヌショウマは全く手をかけなくても良いほどにしっかりと定着し、見事な群落を形成しています。

水路のナガエミクリや湿地のアギナシ、タコノアシはイノシシの被害、雑草に凌駕されて一時は絶滅の危機もありましたが、この数年選択的な除草（順応的管理）や猪防止の電気柵の設置などにより順調に回復してきました。

池は前回、閉塞状態だった葦を除去した結果「モネの睡蓮」の絵のような素晴らしい景観に生まれ変わりました。トンボやカエルが沢山動き回り賑やかです。コウホネの花は終盤ですが、もうすぐアサザの花が咲いてきます。



池のコウホネ、アサザ

3 育成作業

7月8日（木）深夜に大雨が降って那珂川の水位もかなり上がり心配しましたが、明け方には晴れてきました。

今回の作業は、ビオトープを整備してから年月が経過してかなり施設が老朽化してきたので、あちこちと修復整備

作業を行いました。

1) 藤棚整備

デッキ横の藤は天然で川を覆い、子供たちの水遊びの絶好のスポットでしたが、主木が枯れ完全に倒壊してしまいました。

間伐材を活用して棚を作成しましたが、規模が大きく、組み立て、藤の引き上げなどジャッキを使用してもかなりの難工事で、松山集落の皆さんを中心に大勢で奮戦し、無事完成しました。



山野草説明看板も再設置



魚道も修復

2) 河川改修

ビオトープは山間傾斜地のため溪流の流れはかなり早く、大雨により田んぼが被災したこともあります。数年前に設置した水制工が老朽化してきたため全面改修することになりました。間伐材を活用して本格的な武田流の工法を採用し、木杭を製作して打ち込み横材を渡して背後に石を積んで立派に完成しました。関東流の「伊奈備前の守」だけでなく、紀州流の「井沢弥惣兵衛」も感心する出来栄でした。

3) 魚道修理

池の出口に設置したメダカ等小魚用の魚道ですが、構造物の下が浸食されてバイパスができたために、粘土質で埋め固めて修復しました。

4) カタクリ畑の排水路掘削

前回、御前山小学校の児童がカタクリやニリンソウなどを移植しましたが、カタクリは湿地を嫌うので排水改良するために溝を掘削することになりました。暗渠用のパイプの手配が間に合わなかったため、今回は開水路の掘削を行いました。当面はこれで効果を発揮しそうです。



藤棚の建設作業



溪流の改修作業



作業後に皆で

その他、看板の設置、漏水個所の修復など、作業は昼までにほぼ完了しました。日が昇ると、だんだん暑くなってきてダムサイトの付け替え橋の温度計は 32 度まで上がりました。ただビオトープは溪流が涼しく気持ちよい風が流れていました。最後に国営事業所からお土産に試験圃場で栽培したジャガイモを配布されました。

参加いただいた皆さん、大変ご苦労様でした。